

<株式会社エフエム東京 第335回放送番組審議会議事録>

1. 開催年月日：平成18年11月7日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）
 - ◇出席委員（5名）
 - 子安美知子 委員長
 - 青池慎一 副委員長 内木文英 委員
 - 横森美奈子 委員 内館牧子 委員
 - ◇欠席委員（2名）
 - 渡辺貞夫 委員 香山リカ 委員

4. 議題

【番組名】「Hummingbird」

【放送日時】10月25日（水）、11月2日（木）、10月26日（木）
18：30～18：55 放送分（ダイジェスト版）

【番組概要】

JFN38局が掲げるキャンペーン「アースコンシャス」をテーマとするベルト番組として10月から新設しました。

地球環境問題をテーマに、一人ひとりができることをみつめ、リスナーのみなさんと一緒に考え、行動してゆく番組というコンセプトで、健康で楽しく生きてゆける幸せのかたち、持続可能な社会づくり、アイデンティティを認め合う社会などをテーマに、実際に環境活動をするアクティビスト（活動家）から環境意識の高い企業人や各界著名人を毎日ゲストに迎えます。そして自身も2年間の青年海外協力隊に参加し、ミクロネシアで実際に活動した経験を持つアクティビスト、TOKYOFM アナウンサー高柳恭子がゲストのビジョンをリアルにリスナーに届けます。

これまで、番組タイトルの由来である有名なエピソード「ハチドリの一としづく～今私に出来る事」を出版した、ハチドリ計画事務局の鈴木あゆみ氏をはじめ、元ソルボンヌ大学教授で、環境問題研究家・国連経済社会理事会代表・グローバルエコビレッジネットワーク《GEN》評議委員であり、

2005年愛知万博では、「地球を愛する100人」の一人として講演、持続可能な生活をコミュニティを作って実践していく「エコビレッジ」の「エコビレッジ国際会議東京2006」で来日したマルチ・ミューラー氏、「ハチドリのひとつく」を日本で最初に紹介した文化人類学者・環境運動家・明治学院大学国際学部教授・「100万人のキャンドルナイト」呼びかけ人代表で、数々のNGOやNPOに参加しながら「スロー」というコンセプトを軸に環境文化運動を進める辻 信一氏。03年映画「ヒバクシャ～世界の終わりに」で文化庁映画賞文化記録映画優秀賞、平和・協同ジャーナリスト基金賞<グランプリ>ほか多数の受賞歴を持ち、青森県上北郡六ヶ所村の原発で使った燃料からプルトニウムを取り出す再処理工場の放射能汚染をテーマとする映画「六ヶ所村ラプソディー」の監督、鎌仲ひとみ氏等々、着々とネットワークを築きつつあり、今後は音楽界で環境問題に取り組むAP BANK小林武史氏へのアプローチなど、更に基盤を強めながら、新たな価値観のムーブメントの発信基地としてアースコンシャスの中核番組に育てていきます。

また、林野庁と連携し、スペイン坂スタジオからの生放送で環境活動のムーブメントを発信していきます。

<試聴時間：約18分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 構成台本はあるのか？高柳さんご自身が考えられているのか？
- 簡単なものはある。受け答えは彼女自身によるもの。
- 全体的にはすごくいい。こういうものを作らせると、TOKYO FMは面目躍如。ただ、一点、高柳さんの作った声がよくない。ちょっと油断した時にでる地声の方がいいだけに勿体無い。
ゲストのBEGINからの「東京には何事も受け入れる器の広さがある。だから、東京を勝手にもう一つの故郷だと思っている」という素晴らしいコメントがあった。ここをもっとつっこまなければならない。けれども「あー

そうですか～。石垣島なんて青い海と空で羨ましいと思いますけど」と受け答えてしまうのはどうか。事前の打合せをもっとしておくともよいのかも。

- こういう帯番組を作られたこと自体がまず素晴らしい。ただ、どこまでコンセプトを理解し、展開を広げられるかが、難しいところ。ストレートでも単調でもなく伝えていくにはどうしたらよいか。せつかく、“東京にとってのアースコンシャス”という大きなテーマを与えてくれている。制作スタッフもパーソナリティもゲストも、アースコンシャス概念というコンセプトをもっとわかっておく努力が必要。なにか物足りない。假屋崎省吾さんのコメントも、単なる人生論になってしまっている。
- 番組冒頭の「ハチドリのひとつく」のエピソードがとてもいい話である。また、BEGIN の言葉は、ぎょっとするほどよいコメント。こういう良い言葉をもとにして、番組を膨らましていくということが、特にラジオ番組の場合、必要なのではないか。自分の人生に関わるような大事な言葉を引き出すことが、必要だと思った。
- 大変良い番組。時間帯的にも、普通におしゃべりを聞いていたらいいこと聞いちゃったといった雰囲気。ただ、高柳さんは語尾がたまに延びたり、声が甘いのも気になるが、おざなりなやり取りをしているのが気になる。アースコンシャスに対するスタンスを考える必要がある。

環境問題も時代によって変化してきている。今は“LOHAS（ロハス）”に代表されるように文明との共存をいかに考えるかが課題になってきているのに、BEGIN のコメントに対して「東京って悪いところだと思ってました」というのは、環境問題の主流からはずれている。彼らが言っているのは、文明と自然が両立しているという“バランス感覚”のことを言っている。その辺りの認識に欠けると思った。
- 最初はアースデーライブのような大きなイベントの中で行っていたアースコンシャスが、日常的な番組の中に入りこんできたことに、大変感慨深いものがあった。

また、もしも活字で読んだら建前っぽく感じてしまうようなことも、ラジオで、声だけで聞くことによって、ゲストの方々が日常的にこういう考

えを持っていらっしゃるように聞こえてくる。

それに比べると、高柳さんは、この番組に合わせて話しているのか、上滑りな感じがしてしまう。せっかく青年海外協力隊での経歴もあるのだから、背景を感じさせる喋りをされるとよい。特に、「癒される」「素敵」という言葉を多用していたのが気になった。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

① 放 送：番組「Heart Sharing」

11月26日（日） 6：00～8：30放送

② 書 面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内

<http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は12月5日（火）に開催することを決めた。

以 上